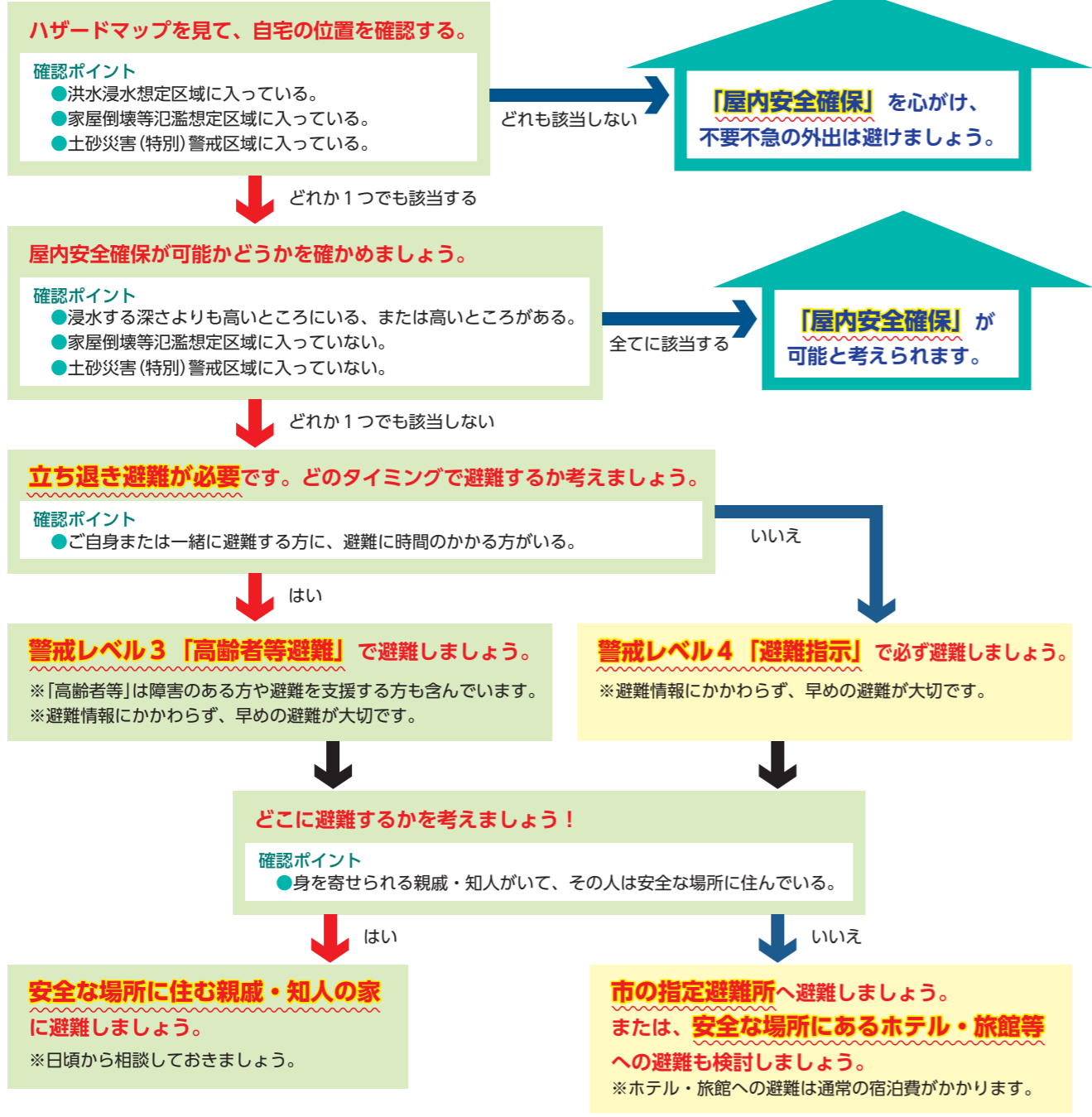


洪水、土砂災害が発生する前にハザードマップを確認して、以下のフロー図をもとに自分がとるべき避難行動を確認しておきましょう。

※過去に浸水した経験がある場合や、河川の近くや土砂災害が心配な場所にお住まいの場合は、このフロー図にかかわらず状況に応じた避難行動をとるようにしましょう。



逃げ遅れた場合は「緊急安全確保」

既に周辺で災害が発生している場合で、立ち退き避難が困難なときなどは、屋内や近隣の「より安全な場所」への移動など、命を守る最善の行動をとります。命の危険性を感じたら119番通報をして救助を要請してください。

立ち退き避難の注意点とリスク

自主的に行動する

- 最新の気象情報や避難情報を積極的に確認しましょう。(8ページ参照)
- 危険を感じたら、避難情報の発令を待たずに自主的に避難を開始！
- 近所に高齢者など避難行動に時間のかかる要配慮者がいる場合は、声をかけて一緒に避難しましょう。
- 知人宅などに避難するときは、公共交通機関が動いているうちに、早めの避難を心がけましょう。



市が開設する指定避難所は不特定多数の人が集まるため、プライバシーが制限され、感染症のリスクも高くなります。より安心な避難のために、安全な場所にある知人や親戚宅、ホテルなどへの宿泊を含め、平時から避難先を検討・相談しておきましょう。

安全な避難経路と避難先

- 避難所までの安全な避難経路を家族会議などで複数確認しておきましょう。
- 近道でも、川沿いや土砂災害(特別)警戒区域などの危険な場所は迂回しましょう。



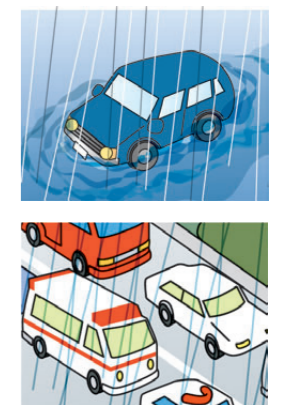
歩く際の注意点

- 人が歩ける水深は成人男性で40~50cm程度。流れが速い場合は浅くても危険です。
- 長い棒や傘を杖代わりにして、側溝やマンホールの蓋が外れていないか確認して歩きましょう。



危険な状況では車で避難しない

- 冠水した道路では車が動かなくなります。また水深が増すと車ごと流される危険もあります。
- 車での避難は緊急自動車の通行の妨げや交通渋滞に巻き込まれて逃げ遅れる危険があります。
- 病人や要配慮者などを避難させる特別な場合を除いて、車での避難はできるだけ避けましょう。



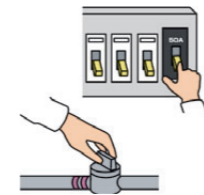
行動と服装

- 単独行動は厳禁
- 動きやすい服で避難を。
- 非常持ち出し品を忘れずに。
- 長靴は水中で足を取られて危険です。運動靴を履きましょう。



家を出る前にチェック！

- ガスの元栓を閉めましたか？
- 電気ブレーカーを切りましたか？
- 避難することを親戚や知人に連絡しましたか？



屋内安全確保の注意点とリスク

注意点

- 家の中心部に近い窓のない部屋や、家の上階で、がけなどの危険な場所の反対側の部屋に移動しましょう。
- 窓、雨戸、カーテンを閉めましょう。
- 鉢植えや自転車など、家の外の飛ばされそうなものを、流されそうなものを屋内に入れましょう。ただし、身に危険が迫っている場合は、安全な場所への避難を優先させましょう。



リスク

- 大雨時には湿度も高く衛生状況が悪くなる可能性があります。
- 電気や水道が使えなくなる可能性があります。
- すぐには救助が来ない可能性があります。
- 食料や医薬品などの調達ができません。